



人権・同和教育と子育て Next プロジェクト

～子どもの10年先、20年先を見つめて～

人権教育課 課長 松浦 透

毎月2回、ひだまりの家で同和教育担当者会議が行われています。この会議は部落差別が現存する中で、残されている実態的課題の解消にむけ、訪宅を基本として子どもや保護者の思いを受け止め、差別解消にむけた支援を進めていくために実施しています。ここでは「18歳の時点で、自己を実現する力を持ち合わせている」ことを目標に、「解放の力」と「自己実現力」のふたつの側面から、保幼小中ひだまりの家が連携して取り組んでいます。「解放の力」とは、自分の力を信じ、仲間とつながり、ともに差別をなくす生き方をめざす力のことを意味します。「自己実現力」とは、自分の10年先、20年先のなりたい姿にむけて、自分で見通しを持ち、挫折しそうになってもあきらめずに学び続ける力のことです。

それらの力をつけるために、就学前・小・中の自主活動学級や地域のなかで、物事に進んでチャレンジする経験や、自分の住んでいるところが好きという学びを仕組んでいきます。人とつながり、やりとりしながら考えを深めていくことも差別をなくすためには大切です。子どもたちは解放運動に取り組んでいる保護者や地域に見守られ、「自分たちはひとりじゃない」と感じながら育っていきます。

マイノリティの子どもたちの幸せな未来を実現するために取り組んできたこれらの人権・同和教育の取り組みは、まさに今、子育て Next プロジェクトで掲げられている非認知能力の育成と重なるところが多いように感じています。人権・同和教育の取り組みが、非認知能力というキーワードのもとで、すべての子どもたちを幸せにする取り

組みへと広がり、非認知能力の高まりが、子どもたち自身の可能性を広げるとともに、社会に存在している差別に気づき、なくすことへとつながっていく。栗東市の人権・同和教育の目標である「一人ひとりの人権を尊重するまちづくり」はその先に必ず見えてくると信じています。

また、人権・同和教育を基本としながら子どもたちの非認知能力を伸ばすためには、もうひとつ大切な視点があります。

それは私たち自身が、子どもや保護者への関わりや見方を意識的に変えていくという視点です。

学校や園でマジョリティ(単に数の多いではなく、教員という立場だけで力を持っているという意味)である私たちは、時として自分の指導していることを「正しい」と考え、押しつけてしまいがちです。「子どものために」と言いながら、自分の価値観を押しつけ、社会においてマイノリティとして生きてきた保護者のしんどい背景に気づきもせず、無理を強いてきたことはないでしょうか。私にはそうしてきた経験があります。そのときの私は、おそらく上から目線で保護者や子どもと関わり、「なんとかしてあげなくては」と必死になって「正論」を押しつけていたのでしょう。でもそれではなにも変わりません。子どもを対等な存在と認め、保護者の生き方を否定せず、「しんどい」とつぶやく言葉に耳を傾け、子どもへの願いを共有し、保護者とともに子どもを支えていこうとして初めて、私たちは子どもの非認知能力を高めていけるのではないのでしょうか。



5月23日(月)

『新任教員(1～3年目)に求められるもの～社会人として・接遇・報連相 チームワークについて～』

【講師】京進のほいくえん HOPPA 栗東下鉤 園長 辻 景子 氏

～受講者の声より～

- 子どもや保護者と関わる中で、敬語が上手くできない場面もあるので社会人であることを意識し、場面に応じた適切な言葉づかいやマナーを身につけたいと思いました。
- いい園を作る為には、プラス思考でものを考えるという辻園長先生の言葉が印象的でした。
- 保育士は、子どもたちや保護者と関わるだけでなく、様々な人とのつながりを大切にしていかなければいけないことを学びました。



6月22日(水)

『主体的、対話的で深い学びを生む保育の創造』～モノと向き合い、遊び込む子どもを育む保育の在り方～』

【講師】滋賀大学教育学部 特任教授 塩見 弘子 氏

～受講者の声より～

- 子どもたちが楽しい、おもしろい、やってみたいと思える遊びを考えていかなければいけないと思いました。しっかり遊びこむことでこれから生きていくために大切な非認知スキルが育つということを念頭にこれから保育をしていきたいと思いました。
- 小学校にあがってから、課題や困難に立ち向かえる人となってほしいという気持ちが高まりました。好きな遊びから、友達とのコミュニケーション、協力が増えるので、自由に遊べる時間をたくさん提案していきたいです。

○小学校につないでいくときの段差のことを考えると、日頃園でしている取り組みに様々な工夫が必要であり、保幼と小学校の連携をしっかりつないでいくことが大切であることを改めて考えることができました。子どもたちの非認知スキルを育てるために保育者はどのような存在であることが必要なのか学ぶことができ良かったです。



7月22日(金)

『子どもの発達を知らう!』

【講師】大宝カナリヤ保育園 主任 山本 美紀 氏

～受講者の声より～

- 子どもの発達を知る時に、自分一人でチェックをするとどうしても主観が入ってしまうため、クラス間で相談し、子どもの姿にあった保育ができるようになりたいです。
- 集団の中では、強みよりも弱みの部分が気になりやすいと思うので、強みを見つけてほめることで、その子の自信につなげていきたいです。

- グループワークでは、ほかの先生の話聞くことで自分とは違った視点があり、新たな発見がありました。
- 保育の専門性が生かされるよう、これからもたくさんの経験を積みながら楽しく保育ができるようにしたいです。





11月17日(木)

『ドキドキ・わくわく 心が動く自然との出会い』

【講師】幼児保育課 神門 則子 氏

◆ネイチャーゲーム プログラム体験

自然となかよくなるために、園庭でネイチャーゲームをしました。普段、保育で大いそがしの先生方。ゆったりと自然とふれあう中で、だんだん表情がやわらぎ・・・やわらかい笑顔とわくわくと輝く目が印象的でした。

カモフラージュ

園庭の宝物探しをしよう!
「ちくちく」「いいにおい」「赤色」
「鳴き声」「くものす」など...

鳥の置物がかくれているよ!

フィールドビンゴ

自然の中に人工物がかくれているよ! いくつ見つけられる?

森の美術館

心が動く
自然との出会い

晩秋のどんぐり

◆講義『ドキドキ・わくわく 心が動く自然との出会い』

乳幼児にとって「自然との出会い」は重要です。自然の中で心を開放し、自然の不思議さや美しさを感じたり、生きものへの親しみや愛情をもったりするとともに、好奇心や探求心を育み、科学的な見方や考え方の芽生えを培う機会となります。そして、「なぜ?」「もっと知りたい」という好奇心や探求心は、学習を支える土台となっていきます。幼児期に体験していることが、小学校以降の学びにつながっていくことについてお話をいただきました。

しかしながら、その自然体験ができにくくなってきており、園生活において、積極的に自然を取り入れた保育環境をつくることが求められます。この研修では、園環境について改めて考える機会となりました。子どもの自然への興味・関心を育む保育環境を考える中で、保育者自身が自然と向き合い、自然を楽しむ心が子どもに伝わり、子どもの心に残る体験となることを教えていただきました。

～受講者の声より～

○フィールドビンゴでは、視覚や聴覚、臭覚など様々な感覚をとぎすますことで、たくさんのに気づけるということを学びました。

○園での自然物が少ないから何もできないと考えるのではなく、視点を変えることで、子どもたちに自然に触れあってもらえることができると知りました。今後の保育に生かしていきたいと思います。

○保育の中でも、子どもの目線で見えてみて、発見や感動を子どもたちと共有していきたいと思いました。

○普段見ている景色でも、遊びを取り入れれば今までと違って見えたり、周りの人と共有することで見えなかったものが見えたりして、子どもにとってとてもいい刺激になることを体感することができました。



子どもの心が動く保育や教育・・・
まず、先生方自身が心を動かしていますか?



『おもしろそう やってみよう』

葉山幼稚園

葉山幼稚園では、子ども達が「おもしろそう」(興味関心)、「やってみよう」(意欲)と身近な環境と関わり、その素材のもつ面白さや不思議さ等に気付き、「なんだろう」「うまいかないなあ、もう一回」と心を動かして活動していくことを大切にしています。

様々な原体験ができるよう、園や地域の自然環境を生かしたり、飼育・栽培活動を取り入れたりしています。自然の中にある不思議さや面白さを五感を通して感じたり、様々な素材の感触や面白さに触れたりすることで、心が動き、その子なりの方法で表現し活動できることを願っています。

そのためには、身近な環境を豊かにしていくとともに、子どもの発達や経験に応じた教材を使いたい時に使えるよう準備し、遊び込んでいくことで、主体的に人や物と関わり、試行錯誤していく姿にもつながると考えます。



『好きです 西中 つながる学校』をめざして

栗東西中学校



栗東西中学校の学校スローガンは、『好きです 西中 つながる学校』です。栗東西中の生徒が「栗東西中に通いたい」「栗東西中が楽しい」と思い、保護者のみなさまや地域のみなさまが「栗東西中を応援したい」と言ってもらえる学校にしたいと思います。そして、生徒、教職員、栗東西中学校にかかわるすべての人がつながり、「栗東西中が好きです」と心から言える学校をめざしています。

また、一人一台端末の環境を活かし、学活や道徳、行事や総合的な学習など、あらゆる場面でChromebookを使う機会をつくっています。朝の会では、健康観察にChromebookを活用しています。授業では、学習内容の確認をはじめ、話し合いながら図を作り上げて情報の整理をしたり、振り返りとしてクイズをしたりしています。行事の活動では、ダンスや合唱の動画を撮って互いに動きを確認したり、オリジナル体操の動画を共有して練習をしたり、オンラインでの生徒総会なども行ったりしています。

栗東西中学校は、滋賀県で有数の大規模校です。約1000人の生徒が学習や運動に一生懸命に取り組み、70人をこえる教職員がその頑張りを応援し、『好きです 西中 つながる学校』をめざしています。

